

Cuspidal automorphic representation に関する  
Garrett の triple L-function の関数等式について

京大理 池田 保

( Tamotsu Ikeda )

P. B. Garrett [1], [2] は総実代数体上の weight の等しい “new form” の 3 つ組に関する triple L-function の解析接続と関数等式を与えた。本稿では彼の結果を拡張し、 $GL_2$  の任意の cuspidal automorphic representation の 3 つ組に関する triple L-function の解析接続と関数等式を与える。詳しくは現在準備中の論文を参照していただきたい。

### §1. 代数的準備

$\mathbb{A}$  を体とする。 $\mathbb{A}$  上定義された次のような代数群を考える。

$$H = GSp_3, \quad P = \left\{ \begin{pmatrix} A & B \\ C & D \end{pmatrix} \in H : C = O_3 \right\}$$

$$U = \left\{ \begin{pmatrix} A & B \\ O_3 & D \end{pmatrix} \in P : A = D = \mathbb{1}_3 \right\}$$

$$G = \{ (g^{(1)}, g^{(2)}, g^{(3)}) \in (GL_2)^3 : \det g^{(1)} = \det g^{(2)} = \det g^{(3)} \}$$

$\mathbb{Z}$  を  $G$  の center における単位元の連結成分とする。  $G$  の  $H$  へのうめこみ  $\iota$  を。

$$\iota \left( \begin{pmatrix} a_1 & b_1 \\ c_1 & d_1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} a_2 & b_2 \\ c_2 & d_2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} a_3 & b_3 \\ c_3 & d_3 \end{pmatrix} \right) = \begin{pmatrix} a_1 & a_2 & | & b_1 & b_2 & | \\ & a_3 & | & & & | \\ \hline c_1 & c_2 & c_3 & | & d_1 & d_2 & d_3 \end{pmatrix}.$$

と定義する。

$P$  の rational character  $\chi_0, \chi_1$  を

$$\chi_0 \left( \begin{pmatrix} mA & * \\ 0_3 & tA^{-1} \end{pmatrix} \right) = m, \quad \chi_1 \left( \begin{pmatrix} mA & * \\ 0_3 & tA^{-1} \end{pmatrix} \right) = \det A.$$

と定義する。 $P$  の modulus character  $\delta$  は  $\chi_0^6 \chi_1^4$  で与えられる。

## § 2. Eisenstein series.

$k$  を global field とする。 $k$  の各素点  $v$  に対して,  $H_v$  の極大 compact 部分群  $K_v$  を。

$v$  が non-archimedean の時.  $K_v = GSp_3(\mathcal{O}_v)$ .

$v$  が real の時.  $K_v = GSp_3(\mathbb{R}) \cap \mathcal{O}_6$ .

$v$  が complex の時.  $K_v = \mathrm{GSp}_3(\mathbb{C}) \cap U_v$

と定義する。  $K = \prod_v K_v$  とおく。この時.  $H_v = P_v K_v, H(A) = P(A)K$ . がなりたつ。

$w$  を  $A^*/k'$  の任意の quasi-character とする時.  $I(w, s)$  を.  $H(A)$  上の  $\mathbb{C}$ -valued function  $f$  で次の 1), 2) を満たすもののがなすベクトル空間とする。

1)  $f$  は右  $K$  有限。

2) 任意の  $p \in P(A)$  に対して

$$f(ph) = w(\chi_0 \chi_1(p)) |\delta(p)|_A^{\frac{1}{2} + \frac{1}{4}} f(h)$$

また.  $\tilde{I}(w, s)$  を 1), 2) をみたすもののがなすベクトル空間とする。

3) 任意の  $p \in P(A)$  に対して

$$f(ph) = w(\chi_0^{-2} \chi_1^{-1}(p)) |\delta(p)|_A^{\frac{1}{2} + \frac{1}{4}} f(h)$$

$k$  の各素点  $v$  に対して. 上の定義において  $A^*/k^*, w, H(A), P(A), K$  をそれぞれ  $k_v^*, w_v, H_v, P_v, K_v$  でおきかえて得られるものを  $I(w_v, s)_v, \tilde{I}(w_v, s)_v$  とする。この時.

$$I(w, s) = \bigotimes_v I(w_v, s)_v, \quad \tilde{I}(w, s) = \bigotimes_v \tilde{I}(w_v, s)_v$$

がなりたつ。

$C(K, \omega)$  を  $K$  上の右有限な  $C$ -valued function  $f$  で、任意の  $p \in P(A) \cap K$  に対して

$$f(pk) = \omega(\chi_0 \chi_r(p)) f(k)$$

をみたすもののがベクトル空間とすると、 $K$ への制限により  $I(w, s) \simeq C(K, \omega)$ .  $\tilde{C}(K, \omega)$  が同様に定義すれば  $\tilde{I}(w, s) \simeq \tilde{C}(K, \omega)$ .

$I_{w_3} : I(w, s) \rightarrow \tilde{I}(w, 1-s)$  を次のように定義する。  $f \in I(w, s)$  に対して。

$$I_{w_3} f(k) = \int_{T(A)} f(w_3 u k) du.$$

ただし  $w_3 = \begin{pmatrix} 0_3 & \mathbb{I}_3 \\ -\mathbb{I}_3 & 0_3 \end{pmatrix}$ .  $T(A)$  の Haar measure  $du$  は  $\text{Vol}(T(A)/T(k)) = 1$ . と定めよう。

この積分は  $\text{Re } s \gg 0$  の時、絶対収束し、 $I_{w_3}$  は  $C(K, \omega) \rightarrow \tilde{C}(K, \omega)$  という operator とみて全  $s$ -平面に解析接続できる。

また、各要素点  $v$  に対して  $I_{w_3, v}$  を同様の積分で定義すれば、 $I_{w_3} = \bigotimes_v I_{w_3, v}$  がなりたつようになる。

$f \in I(w, s)$  または  $f \in \tilde{I}(w, s)$  の時、Eisenstein series  $E(k; f)$  は  $\text{Re } s \gg 0$  の時、絶対収束する級数

$$E(h; f) = \sum_{r \in P(k) \setminus H(k)} f(rh)$$

で定義され、全  $k$ -平面に解析接続される。また次の関数等式がなりたつ。

$$f \in I(w, s) \text{ に対して, } E(h; I_w, f) = E(h; f).$$

### § 3. Rankin-Selberg convolutions

$k$  を global field,  $\pi_i$  ( $i=1, 2, 3$ ) を  $GL_2(A)$  の cuspidal automorphic representation,  $\varphi_i$  を  $\pi_i$  に属する cusp form,  $w_i$  を  $\pi_i$  の central quasi-character,  $w = w_1 w_2 w_3$  とする。

$A/k$  の additive character  $\psi$  を固定する。 $\pi_i$  の  $\psi$  に関する Whittaker model を  $W(\pi_i, \psi)$  とする。

$\varphi_i$  はある  $w_i \in W(\pi_i, \psi)$  を用いて

$$\varphi_i(g) = \sum_{\alpha \in k^{\times}} w_i \left( \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} g \right).$$

と展開される。

$f \in I(w, s)$  または  $f \in \tilde{I}(w, s)$  に対して Rankin-Selberg 型の積分

$$\int_{Z(A)G(k) \backslash G(A)} E(z(g); f) \prod_{i=1}^3 \varphi_i(g^{(i)}) dg \quad (2.1)$$

を考える。

Lemma. 1.  $P(k) \backslash H(k) / z(G(k))$  の完全代表系として次の5個がとれる。

$$\eta_0 = \left( \begin{array}{c|cc} 1 & -1 & \\ \hline 1 & 1 & -1 \\ -1 & 1 & 1 \end{array} \right), \quad \eta_1 = \left( \begin{array}{c|cc} 1 & & -1 \\ \hline & 1 & \\ 1 & 1 & -1 \end{array} \right),$$

$$\eta_2 = \left( \begin{array}{c|cc} 1 & -1 & \\ \hline 1 & 1 & \\ -1 & 1 & 1 \end{array} \right), \quad \eta_3 = \left( \begin{array}{c|cc} & & -1 \\ \hline 1 & 1 & \\ -1 & 1 & 1 \end{array} \right), \quad \eta_4 = \mathbb{1}_6.$$

$R_j = z^{-1}(\eta_j^{-1} P \eta_j)$ , ( $0 \leq j \leq 4$ ). とおけば,  $j=1, 2, 3, 4$  の時.

$R_j$  は  $G$  のある proper parabolic subgroup の unipotent radical を正規部分群にもつ。

この Lemma により,  $\operatorname{Re} s >> 0$  ならば,

$$(2.1) = \int_{Z(A)N_0(A) \backslash G(A)} f(\eta_0 z(g)) \prod_{i=1}^3 W_i(g^{(i)}) dg$$

がなりたつことが証明できる。ここで.

$$N_0 = \left\{ \left( \begin{pmatrix} 1 & m_1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 & m_2 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 & m_3 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \right) \in G ; m_1 + m_2 + m_3 = 0 \right\}.$$

$f = \prod_v f_v$ ,  $W_i = \prod_v W_{i,v}$  であれば、この積分は次の無限積に等しい。

$$\prod_v \int_{Z_v N_{0,v} \backslash G_v} f_v(\gamma_0 z(g_v)) \prod_{i=1}^3 W_{i,v}(g_v^{(i)}) dg_v.$$

$v$  が non-archimedean で、 $\pi_{i,v}$  がすべて class I の時。  
 $w_v \in k_v$  の素元、 $g_v$  を剰余体の位数とし、 $f_v \in I(w_v, s)_v$ .  
 $W_{i,v} \in W(\pi_{i,v}, 4)$  で  $f_v|_{K_v} \equiv 1$ ,  $W_{i,v}|_{GL_2(O_v)} \equiv 1$ . とする時。

$$\int_{Z_v N_{0,v} \backslash G_v} f_v(\gamma_0 z(g_v)) \prod_{i=1}^3 W_{i,v}(g_v^{(i)}) dg_v$$

$$= (1 - w_v(\pi_v) g^{-2A-1}) (1 - w_v^2(\pi_v) g^{-4A}) L(s, \pi_1 \times \pi_2 \times \pi_3)_v$$

ここで、 $L(s, \pi_1 \times \pi_2 \times \pi_3)_v$  は、 $\pi_{i,v} = \pi(\mu_i, v_i)$ ,  $\mu_i, v_i$  は  $k_v^\times$  の unramified character. とする時。

$$\underbrace{(1 - \mu_1 \mu_2 \mu_3 (\pi_v) g^{-A})^{-1} \cdots \cdots (1 - v_1 v_2 v_3 (\pi_v) g^{-A})^{-1}}_{8 \text{ 個}}$$

で与えられる。

注意。Garrett は同様の結果を  $GL_2(k)$  の cusp form  $\varphi_1, \varphi_2, \varphi_3$  に対してだけでなく、次の場合にも得ている。

- 1)  $GL_2(\bar{F})$  の cusp form  $\varphi_1$  と  $GL_2(\bar{k})$  の cusp form  $\varphi_2$ .  
 ここで  $\bar{F}$  は  $\bar{k}$  の総実を 2 次拡大.  
 2)  $GL_2(K)$  の cusp form  $\varphi_1$ . ここで  $K$  は  $\bar{k}$  の総実を 3 次拡大.

#### § 4. 主定理.

$k_v$  を local field,  $\psi_v$  を  $k_v$  の additive character,  $\pi_{i,v}$  ( $i=1, 2, 3$ ) を  $GL_2(k_v)$  の既約な admissible representation, とする。

$f_v \in I(\omega_v, \alpha)_v$ ,  $W_{i,v} \in W(\pi_{i,v}, \psi_v)$  に対して

$$\Psi_\alpha(f_v; W_{1,v}, W_{2,v}, W_{3,v}) = \int_{Z_v N_{0,v} \backslash G_v} f_v(\eta_v \gamma(g_v)) \prod_{i=1}^3 W_{i,v}(g_v^{(i)}) dg_v.$$

$$\widetilde{\Psi}_\alpha(f_v; W_{1,v}, W_{2,v}, W_{3,v}) = \int_{Z_v N_{0,v} \backslash G_v} I_{W_{3,v}} f_v(\eta_v \gamma(g_v)) \prod_{i=1}^3 W_{i,v}(g_v^{(i)}) dg_v.$$

と定義する。

定理 1.  $\Psi_\alpha(f_v; W_{1,v}, W_{2,v}, W_{3,v})$ ,  $\widetilde{\Psi}_\alpha(f_v; W_{1,v}, W_{2,v}, W_{3,v})$  は  $C(K_v, \omega_v) \times \prod_{i=1}^3 W(\pi_{i,v}, \psi_v)$  の上の 4 重線型形式として全  $\bar{k}$ -平面に meromorphic に解析接続される。 $\pi_{1,v}, \pi_{2,v}, \pi_{3,v}, \psi_v$  のみに依存する  $\alpha$  の有理型関数  $E'(\alpha, \pi_{1,v}, \pi_{2,v}, \pi_{3,v}, \psi_v)$  がある。

$$\begin{aligned}\widehat{\Psi}_s(f_v; W_{1,v}, W_{2,v}, W_{3,v}) &= \mathcal{E}'(2s-2, w_v, \psi_v)^{-1} \mathcal{E}'(4s-3, w_v^2, \psi_v)^{-1} \\ &\quad \times \mathcal{E}'(s, \pi_{1,v} \times \pi_{2,v} \times \pi_{3,v}, \psi_v) \\ &\quad \times \Psi_s(f_v; W_{1,v}, W_{2,v}, W_{3,v})\end{aligned}$$

かなりたつ。

ここで 右辺の最初の 2 つの  $\mathcal{E}'$  は  $\mathbb{A}_v^\times$  の quasi-character に対する  $\mathcal{E}'$  因子で、 $\chi$  を  $\mathbb{A}_v^\times$  の quasi-character とする時、  
 $\mathbb{A}_v$  上の任意の Schwartz-Bruhat function  $\varphi$  に対して

$$\int_{\mathbb{A}_v^\times} \widehat{\varphi}(x) \chi^{-1}(x) |x|_v^{1-s} dx = \mathcal{E}'(s, \chi, \psi_v) \int_{\mathbb{A}_v^\times} \varphi(x) \chi(x) |x|_v^s dx.$$

かなりたつものとして定義される。ただし、 $\widehat{\varphi}$  は  $\varphi$  の  $\psi_v$  に関する Fourier 変換。

定理 2.  $\mathbb{A}_v^\times$  の quasi-character  $\mu_v, \nu_v$  があって、 $\pi_{1,v}$  が  $\pi(\mu_v, \nu_v)$  の subquotient になっている時。

$$\begin{aligned}\mathcal{E}'(s, \pi_{1,v} \times \pi_{2,v} \times \pi_{3,v}, \psi_v) &= \mathcal{E}'(s, (\mu_v \otimes \pi_{2,v}) \times \pi_{3,v}, \psi_v) \\ &\quad \times \mathcal{E}'(s, (\nu_v \otimes \pi_{2,v}) \times \pi_{3,v}, \psi_v).\end{aligned}$$

かなりたつ。ここで右辺の  $\mathcal{E}'$  は Jacquet [3] の定義した  $GL_2$

$\times GL_2$  の  $\Sigma'$  因子。

$k$  を global field,  $\pi_i$  を  $GL_2(A)$  の既約な cuspidal automorphic representation とする。

$k$  の素点の有限集合  $S$  を

- 1)  $S$  は archimedean place をすべて含む.
- 2)  $v \notin S$  ならば,  $\pi_{i,v}$  は class 1.
- 3)  $v \notin S$  ならば,  $\psi_v$  は order 0.

が満たされるように定める。

$$L_s(s, \pi_1 \times \pi_2 \times \pi_3) = \prod_{v \notin S} L(s, \pi_{1,v} \times \pi_{2,v} \times \pi_{3,v})_v \text{ と定義する。}$$

$\pi_i$  の contragredient representation を  $\tilde{\pi}_i$  とする。

定理3.  $L_s(s, \pi_1 \times \pi_2 \times \pi_3)$  は全  $s$ -平面に有理型関数として解析接続され、次の関数等式をみだす。

$$\begin{aligned} L_s(1-s, \tilde{\pi}_1 \times \tilde{\pi}_2 \times \tilde{\pi}_3) & \prod_{v \notin S} \Sigma'(s, \pi_{1,v} \times \pi_{2,v} \times \pi_{3,v}, \psi_v) \\ &= L_s(s, \pi_1 \times \pi_2 \times \pi_3). \end{aligned}$$

例  $k_v = \mathbb{R}$ ,  $\psi_v(x) = \exp(2\pi\sqrt{-1}x)$ ,  $\pi_{i,v} \in$  weight  $k_i$  の holomorphic cusp form から生成された automorphic rep

resentation の  $\mathbb{R}$ -component をすると.

$$\mathcal{E}'(s, \pi_{1,v} \times \pi_{2,v} \times \pi_{3,v}, \psi_v) = (-1)^{k_1+k_2+k_3+1} (2\pi)^{8s-8-4(k_1+k_2+k_3)}$$

$$\times \frac{\Gamma(k_1+k_2+k_3-2-s) \Gamma(k_2+k_3-1-s) \Gamma(k_1+k_3-1-s) \Gamma(k_1+k_2-1-s)}{\Gamma(s) \Gamma(s+1-k_1) \Gamma(s+1-k_2) \Gamma(s+1-k_3)}$$

### References.

1. P. B. Garrett, Decomposition of Eisenstein series; Rankin triple products, Univ. of Minnesota Math. Report.
2. —, Integral representation of certain L-functions, attached to one, two, and three modular forms, to appear.
3. H. Jacquet, Automorphic forms on  $GL_2$ . II, LN 278
4. R. P. Langlands, On the functional equations satisfied by Eisenstein series, LN 544.
5. I. I. Piatetski-Shapiro and S. Rallis, L-functions for classical groups, to appear.
6. T. Satoh, Some remarks on special values of triple L-functions, to appear.
7. T. Ikeda, in preparation.